



NSバートルクライ

#208

8 / 2024 (135)

レキシコン - Michael Kühnen

108 - RICH

帝国とは、アーリア人種の最高形態の国家組織である（「国家」と「アーリア人」も参照）。一般に帝国とは、生活空間を組織する自給自足の大規模秩序を意味する（autarkyを参照）。しかし、アーリア人にとって、帝国はそれ自体も価値を体現しており、彼の歴史的・政治的伝統の一部である。

王国は、人間によって秩序づけられた宇宙、自然と文化の調和という秩序の原理を体現し、それによって救いに奉仕する。

この秩序原理は、ゲルマン民族がローマから受け継いだ帝国の思想の中に完璧に表現されている。帝国という考え方は、本来、国家社会主義者の世界観の一部である。現在、その政治的な権力者はヨーロッパの国家社会主義政党である（国家社会主義ドイツ労働者党の項を参



照)。今日でも理解されているように、帝国の理念は、人々の性格とローマ帝国の生き方の中で生まれたものである。ローマ帝国は、古代においてすでにアリア人の生活空間の大部分を包含していたので、ヨーロッパの偉大な帝国の伝統の出発点である。ローマ帝国の崩壊は、その退廃とキリスト教による封印が引き金となり、東方帝国と西方帝国に分裂することになった。その結果、新しい民族が次々と帝国の思想を取り入れることになった。

ギリシャ人（ビザンティン人）は東方帝国の最初の民族的担い手であり、そこからアラブ人やトルコ人が帝国を築いた際に影響を受けている。ビザンティンの政治的後継者はロシア人であり、今日まで東方帝国の主要な人々である（スラブ人、ソビエト連邦の項も参照のこと）。

ローマが最終的に滅亡した後、ゲルマン民族、とりわけその中核をなすゲルマン人は、西方帝国の民族的担い手としてヨーロッパの超国家的秩序を担い、こうして「ドイツ民族の神聖ローマ帝国」、第一帝国を建国したのである。

盟約者団の分裂、ヨーロッパ諸国とその国民国家の形成と強化は、旧帝国を粉砕し、1905年に憲法の下で消滅し、その残骸は1918年までオーストリア帝国で生き続け、ますます時代錯誤の度を強めていった。ドイツ人は旧帝国崩壊まで自国の国民国家の形成を控えていたが、ヨーロッパ帝国主義の時代は、強力な国民国家のみが帝国を創設し維持するための前提条件を作り出すということを認識させるものであった。こうして1871年、ドイツ人は第二帝国という強力な国民国家を作り上げた。しかし、ドイツの国民国家は、ヨーロッパにとって強すぎると同時に弱すぎる存在であることが明らかになった。近隣諸国や世界政治の競争相手がその存在を受け入れるには強すぎるが、彼らの意思に反して存在する権利を主張するには弱すぎるのである。それが、必然的に20世紀の2つの世界大戦につながったのである。

しかし、オーストリアやトルコの君主国と同盟を結び、ロシアに勝利することによって、ほとんど無意識のうちに、ドイツ国民国家のヴォルキッシュ・パワーに支えられた新しい大帝国を建設することに成功したのである。それに対して、第三帝国の指導者は、同じ試みを意識的かつ明確に行ったのである。国家社会主義の革命的な力学は、この試みを支持し、ド

イツのすべてのヴェルキッシェ勢力を完全に動員した。しかし、この時も帝国建国は、ドイツの権力的政治的敵対者の帝国主義によって失敗した。また、第三帝国を崩壊させ、ドイツを分割し、服従させた。

新戦線の共同体は、ドイツ民族の種の保存と発展に不可欠な生活空間、独立と主権に対する帝国思想の要求をあきらめずに、第二帝国と第三帝国の破壊の印象のもとに一貫した結論を導き出し、もはやドイツ民族国家の形成と拡大によって帝国の新しい基盤を実現するのではなく、アーリア民族の生活空間全体における世界規模の国家社会主義革命によって実現しようと考えている、自覚的に反帝国主義の運動として自己を見なしているのだ。この目的のために、国家社会主義政党は世界運動を形成しているのです。

この革命の果てに、来るべき第四帝国は、超国家的大秩序として東西ヨーロッパ全域、アラビア、トルコ、ペルシャを包含する（「パールシーと東インド・ヨーロッパ主義」も参照のこと）。この帝国では、関係するすべての民族は、人種隔離と人種衛生を基本として、その種と性質に応じて自由な国家として発展することができる（「自由」の項も参照）。この第四帝国は、他の大陸の覚醒したアーリア人種と団結してアーリア人の国家共同体を形成し、こうして新秩序を完成させるのである。



109 - 革命

例えば、狩猟採集生活から定住農耕生活への移行を伴う新石器時代の革命や、近代の技術革命は、いずれも生活を一変させ、あらゆる価値観を一変させるものであった。国家社会主義は、革命を狭義の権力政治のレベルの激変ととら

え、それがあらゆるレベルのあらゆる価値の再評価をもたらすとし、この概念を革命によって克服すべき退廃の概念と密接に結びつけている。

したがって、国家社会主義は、既知のヨーロッパの歴史の中で、3つの革命を数えることになる。

古代世界の退廃が進む中、**キリスト教革命**は、全能の神とその戒律による道徳という概念を、すべての思考、感情、行動の中心に据え、その上に千年以上続く秩序を築き上げたのである。しかし、キリスト教は、ヨーロッパにおけるアーリア人の退廃という基本的な問題（アーリア人参照）、すなわち人間の本性と文化の間の疎外感に対して、ニーチェがすべての明瞭さと鋭さをもって正しく認識したような解決をもたらすことができなかった。それどころか、キリスト教の教条主義はヨーロッパの精神生活を抑圧し、自然と文化の融和を妨げ、抑圧したアーリア人の生きる意志をますます抑圧することになった。

これに対して、最終的に勝利した**啓蒙主義の革命**は、個人、その自由、自己決定、自己実現をすべての思考、感情、行動の中心に置いたが、これを基礎として安定した秩序を作り、退廃を克服するという課題では失敗した。- むしろ啓蒙革命の個人主義によって、西欧型の民主主義の国家形態と自由資本主義の生活秩序は、アーリア人種の退廃が急性期に入り、人種の生存を直接脅かす秩序の歪曲と嘲弄として出現したのである。

これに対して、**国家社会主義の革命**は、現在、1918/29 JdFから戦っており、1933/44 JdFに初めて権力政治の面で自己主張したが、当初は1945/56 JdFに反動によって弾圧され、鎮圧された。しかし、国家社会主義革命は、権力政治的な抑圧の水面下で継続し、共同体をすべての思考、感情、行動の中心に置くことによって、人間共存のあらゆる価値を変革し、アーリア人種の世界運動と意志の担い手となった（「意志」も参照）。国家社会主義は、自然と文化を最終的に調和させ、退廃を克服する新秩序を目指すものである。

すべての権力政治的革命は、戦い、勝利し、新秩序を形成するために、権力政治的意志の担い手-革命的組織-を必要とします。この仕事は、キリスト教ではカトリック教会が、啓蒙主義ではフリーメイソンという秘密結社が引き受けた。国家社会主義革命の担い手は国家社会主義党（国家社会主

義ドイツ労働者党を参照) である。

国家社会主義とその新秩序は、フォルクスゲマインシャフトの思想の上に成り立っている。これは、国民の自発的な同意と忠誠心があればこそ考えられることです。この結果、国家社会主義党は、西側のタイプの機能する民主主義の条件のもとで、合法的に革命を遂行することができる、すなわち、議会制の政党として選挙に参加し、適用される憲法の枠内で、政権を獲得する可能性と義務が生じるのである。それが可能な場合、国家社会主義党は、この法的革命の道を歩み、国家改革を経て、国家社会主義人民国家（国家を参照）、最終的に新秩序に至る。支配秩序が合法的な革命を許さない場合、党は地下で戦い、必要であれば武装抵抗を組織する（「人狼」を参照）。

アーリア人種の圧倒的な退廃を考えれば、国家社会主義革命の勝利は、今日、破滅と人種的死への唯一の代替手段である。このことは、ドイツで新戦線思想共同体が主導している国家社会主義世界運動のNSDAP禁止期間中の闘争の絶大な責任と重要性を正当化するものである。

110 - RITUS

儀式は伝統の外形であり、したがって、あらゆる伝統的秩序の重要な構成要素であり、その中で、遺伝の原理とともに、生活の基礎となるものである。退廃は儀式を破壊し、その結果、文化のバックボーンを奪ってしまう。これは、アーリア人種の退廃が進むヨーロッパでも起こったことである（「アーリア人」を参照）。したがって、儀式の回復、あるいはその再創造は、種と自然に則した新秩序を求める闘いにおける国家社会主義の目標の一つであり、意識的な生政治的基盤の上に伝統文化を再確立するものである（生物学的ヒューマニズムも参照されたい）。

しかし、伝統と儀式は、文化的理解という理由から国家社会主義の重要な基礎であるだけでなく、思想的にも、また、少なくとも組織的にも必要なものである。国家社会主義は、教条主義を知らない。そのメッセージ、内容、意味は、あらゆる多様性とその自然法則を持つ生命である（分化を参照）。このように、国家社会主義は、その信奉者の数や性質のように多様

であるが、それが組織的に表現する生きる意志を持つ人々や人種の生物学的性質のように均一なものなのである。それは、「自由」という思想です。

とはいえ、競合する多数のサークル、宗派、傾向に崩壊することなく、民族と人種の生存のための闘争の道具を形成するために、国家社会主義は党を必要とするのである。歴史的な力を持つ伝統の党と、揺るぎない儀礼の伝統の党。こうして、党の結束と影響力は、最終的に儀式によって守られ、歴史に伝えられていくのである。ドイツでは、これが含まれます。

国家社会主義ドイツ労働者党、その党綱領、その指導者アドルフ・ヒトラーへの公然のコミットメントである。

救いの敬語（ハイル参照）。

の茶色いシャツを着ていた。

鉤十字の旗

これらすべて、そしてさらに多くのことが、「外形的なもの」ではなく、ドイツ国家社会主義の伝統と儀礼の一部であり、歴史的・政治的力としての国家社会主義そのものを消し去ることなしに、取り除くことはできないのである。儀式は党の存続を保証するものであり、形として成熟したその集合意思である。

111 - ローマ字

ローマ人は、ゲルマン人、スラブ人、東インド・ヨーロッパ人とともに、アーリア人「種族」（「アーリア人」を参照）の一族である。彼らはヨーロッパ、特に大陸の南部と西部に定住した。人種的には、西方系のアーリア人に属する。歴史的には、彼らはファシズムの創造者であり、形成者である。しかし、ファシズムは、国家社会主義に比べて、現在の白人種の生存の危機に対して不十分であることが証明されている。したがって、国家社会主義は現在、ロマンス民族の間でも信奉者を増やし、第四帝国の一部としてヨーロッパのすべてのロマンス民族をロマンス連邦に統一するために戦っているのである。

歴史的な国家社会主義は、もともと北欧・ゲルマン系の人間だけを対象と

していたが、アーリア人種の苦境は、前述のように、自らを白人全体の組織的な生命への意志と見なさざるを得なくなったのだ。この意志の担い手は、国家社会主義世界運動の一翼を担うそれぞれの国家社会主義政党のロマンスピープルにもいる（国家社会主義ドイツ労働者党も参照された）。したがって、今日の新世代の国家社会主義は、種と自然に即してアーリア人全体の生存とより高い発展のための包括的な闘争において、西洋人タイプの種の保存と発展も保証する。

102 - RUSSIA

ロシア人はスラブ民族の中核をなす民族であり、人種的には東方系のアーリア人が多い。歴史的に見れば、ロシア人は東ローマ帝国ビザンティウムの後継者であり、東欧帝国思想の民族的担い手である。その政治的表現は、何よりもスラブ民族の統一を目指す汎スラブ主義である。

汎スラブ主義の伝統から、ロシアと汎スラブの国家社会主義が生まれ、来るべき第四帝国のヨーロッパ大秩序の中にスラブ連邦を作り、その中でロシア人は、その歴史的影響力とヴォルキッシュの力から、重要な意義を持つことになるのである。このような民族の自由と、スラブ一般とロシア人民の本性・性質に応じた発展という観点から、民族社会主義は、とりわけソ連において、支配的マルクス主義を精神的に克服し、共産党独裁を粉砕し、もってその帝国主義を打破する力を獲得していくのである。ロシア人の解放は、ソビエト帝国の死の前提条件である！

しかし、歴史的経験、特に第二次世界大戦の経験と核時代の状況は、そのような外からの、あるいは戦争による解放の可能性を信じることを禁じているのである。こんなことができるのは、ロシア人自身だけだ。ロシア・ナチス運動の実証された基礎と継続的な存在、その他の関連する民族的なロシアと汎スラブ的な願望によって、このロシアの解放はすでに始まっているのである。

これに対し、新世代のドイツ国家社会主義は、東方拡大という考えを放棄し、十分な生活空間を確保するための新しい方法を追求する。したがって、新戦線は、結果として、ドイツの統一、自由、主権を最終的に取り戻すために、中立を目標とするドイツ民族のオストポリティクスを目指すことになったのである。

113 - 自己決定権

生物学的人文主義は、国家社会主義の科学的知の教義として、人間の生物学的本性、自然の法則が人間の個人生活および共同生活に及ぼす影響、人間の自然および文化的共同社会に対する帰結を認識し、それによって種と自然に従って行動する条件を作り出すよう努力するものである。人間の社会的共存のための最も重要な生物学的基盤は、次のとおりである。

遺伝、生存競争における選択（エリートの項も参照）、身体的および精神的な気質の両方における分化。

国家社会主義は、人種衛生とエリート形成の政策を通じて、遺伝と淘汰の生命法則を考慮に入れている。分化から、国家社会主義は、個人、性別（母性を参照）、民族、人種に展開する、人間という生物学的種における生命の多様性への尊敬を導き出すのである。これが、個人を人格に、人民を国家に、民族を帝国と人種的に決定された民族共同体に導く国家社会主義の政策の基礎となり、人種隔離をその前提条件とするのである。

したがって、国家社会主義は、自己決定権を分化の生物学的自然法則から導き出し、したがって、すべての人種、人民および民族の生存、より高い発展および自由への権利を要求するのである。

この自決権の実現に成功するのは、同胞が意志の共同体、すなわち国家へと成熟する民族だけである。そのような国には、意志の担い手が必要です。アーリア人（「アーリア人」を参照）の間では、この任務は、さまざまな党を持つ国家社会主義の世界運動によって果たされている。ドイツでは、国家社会主義ドイツ労働者党がこれにあたる。NSDAPが、党綱領の第1項ですでに、人民の自決権に基づいて、全ドイツ人を大ドイツに統一することを要求しているのは、そのためである。

国家は、国民国家（「国家」を参照）を目指して自決権を実現するだけでなく、他の民族と団結して帝国を形成することもできる。したがって、新戦線は、将来新たに創設されるNSDAPの中核として、ドイツ国民の自由と自決の実現のために、より大きなヨーロッパの生活空間全体（ヨーロッパも参照）を包含することになる第四帝国の大秩序の枠内で、自決権に基づいて戦っているのである。

卍の下で楽しむ

ゲルハルト・ラウクによる逸話集

41.

少し「お堅い」会社の役員になったとき、給料と昇進の可能性にとっても満足した。しかし、周囲を忘れて不適切な政治的発言を漏らしてしまわないか、少し心配でもあった。

もちろん、筋金入りの国家社会主義活動家として、私は“アーリア人”、“ニガー”、“スピック”、“ユダヤ人”などの日常用語を使うことに慣れていて、しかし、“会社はこうすべきだ”ではなく、“党はこうすべきだ”というような言い方も慣れていて、会社の方針について議論していると、つい口を滑らせてしまうんです。だから、気をつけなければと思いました。

皮肉なことに、私の政党活動家としての活動が、実際にこの仕事を得るのに役立つのです。(害虫駆除会社でもガス会社でもSS退役軍人の慈善団体でもない!)。私の履歴書には、経営学と出版を含む広範囲な「ボランティア活動」を簡単に書きました。そのことが将来の雇用主に好印象を与え、私自身は大学で経営学を学んでいないにもかかわらず、同じポジションで競合するMBAの学生を打ち負かすことができたのです。

この間、いろいろと楽しい経験もしました。時には、イディッシュ語のわからないユダヤ人のセールスマンのために、イディッシュ語のジョーク(イディッシュ語はドイツ語、ポーランド語、ヘブライ語が混ざった雑種)を訳さなければならぬこともあった.....。

あるとき、英語があまりに下手で、社内の誰も理解できないので、コミュニケーションをとるのを手伝ってほしいと頼まれたことがあります。「ドイツ語なら話せるかもしれない」と誰かが言った。(彼はイスラエルから移住してきたユダヤ人だったのですが...。)

ある日、ユダヤ人のボスがある業者のことで腹を立て、「ヒトラーとは取引できない!」と言い放った。私は真顔で、「それはどうでしょう、1930年代は国際物々交換がうまくいっていたんですよ」と答えたら、最初は驚いていたが、すぐに笑顔になった。ユーモアのセンスはあるようだ。

ユダヤ人は非常に知的であると同時に、非常に感情的である。ロックウェルは彼らの感情論を見事に利用し、鉤十字をうまく使って、彼らを泡を吹くような怒りに駆り立てた。そして、自分たちの狂気のような憎悪をさらけ出したのである。しかし、ユダヤ人は自分たちの過剰な感情主義を自覚している。私の上司は何度も私に、「もし私が怒って自分のビジネス上の利益に反する行動を取ることがあれば、言ってくれ!」と言った。ドルやセントの側面から説明してくれ。お金には意味があるんだ。あるとき、役員会が白熱しているときに、私はまさにそれを実行した。ポケットから小銭を取り出してテーブルに叩きつけ、自分の主張を説明しながら小銭を押し始めたのだ。私はその議論に勝った。その後、上司がやってきて、「君が私を納得させたのはいつだったかわかるか?あのコインで自分の主張を証明したときだ!」と。

もちろん、気まずい瞬間もあった。ある時、部長が私の机の上に新聞記事を置いた。その記事は国家社会主義を扱ったもので、さらに悪いことに、私の名前が赤いインクで丸く囲まれて

いたのだ。幸いなことに、スペルが少し間違っていた。そして、もっと重要なことは、その時の私の顔を彼が見ることができなかったことだ。私はそれをちらっと見て、笑って、“もしかしたら、私の狂った親戚の一人かもしれない！”と言いました。そして、もう何の意味もないので、仕事に戻りました。

また、会社の駐車場に停めてあった私の車のシートに、誰かがパーティーのステッカーを貼ったこともありました。しかし、その時は何もなかった。後で知ったことだが、その人は党のシンパで、冗談のつもりで貼ったらしい。

そう、私は笑いものにされた。ユダヤ人が“フロイト心理学”として一般に知られている原始的なユダヤ人の性の迷信に基づいて広告キャンペーンを行うとき、我々異邦人はほとんど真顔になることができなかった。メンゲラ博士の実験が話題になったこともありましたよ。

一番面白かったのは、「yiddischer Kopf」（「ユダヤ人の頭」または「ユダヤ人の脳」）と言われた時だ。実はこれは、私が大きな取引を成功させたので、心からの賛辞として言われたのです。

私の同志はよく憶測したものだ。ユダヤ人は君の政治を知っているのか、知らないのか？私はまだ知らない。ユダヤ人にとっては、政治よりも金の方が大事だし、私は会社で金を稼いだ。第二次世界大戦後、ユダヤ人企業だけがあえて元外交員を雇ったそうです。ユダヤ人は反ユダヤ主義を問われる心配がないし、我々の仲間がよく働くを知っていたのです

お金だけでなく、多くの人脈と実務経験を得ることができました。もちろん、党のボランティア活動も続けましたし、そのスキルは今でも仕事に生きていますよ。ホワイトレボリューション



NS KAMPFRUF
KAMPFSCHRIFT DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITSPARTEI AUSLANDS- UND AUFBAUORGANISATION

Der Kampf geht weiter !

Seitlich Jahre nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die nationalsozialistische Bewegung stärker als je zuvor in der Nachkriegszeit. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!

Jahrzehnte von Massentötung, Verdrängung und Verleumdung haben nicht ausgereicht, die Kräfte der germanischen Rassen hoch qualifizierten Führern Adolf Hitler zu unterwerfen.

Alle Nationalsozialisten sind weniger affektuelle Volkler und Rassenmenschen als ein Schächer im Kampf um die Erhaltung unserer weißen Völker.

Der Bewegung ist zwar militärisch gelungen, aber die Größe des biologischen Volkstums ist heute noch viel größer als in der Vergangenheit.

Der wesentliche Gegner ist aber dabei, dem Volkstum – gegen alle weißen Völker (?) – zu begegnen. Seine Mittel sind Entnazifizierung, Überforderung und Rassenvermischung.

Ein "neg" oder "nigro", ob im Wahlkampf oder im Straßengang, ob als Propagandamittel benutzt oder auf einem Kutschfeld anderer Art. Jeder Nationalsozialist hat seine Pflicht!

Hitler
Gottfried Lenz



TROTZ VERBOT NICHT TOT!



N.S.ニュース速報A
www.nsdapao.org
#1005 19.06.2022 (133)
NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート
モリーへのインタビュー

第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものですね。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続いています。主にAdolf Hitler and the Army of Mankind (www.mourningthescient.com/truth.htm)に集中して取り組んでいます。現在2ページですが、まだまだやることがたくさんあります。第二次世界大戦の勃発は、まさに情報の地雷原です。一つのことについて情報を探しても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the **NEW ORDER**

Number 179 (2022) Founded 1973 April 26, 2022 (126)

The Fight Goes On !

Seventy years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defilement have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware consciences and racial kinemen fight our White folk.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folk. His means are neo-White immigration, culture distortion, and re-education.

Whether "neg" or "nigro", whether in election halls or street battle, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind, every National Socialist must do his duty!

Hitler!
Gottfried Lenz



TROTZ VERBOT NICHT TOT!

NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物
多くの言語の何百冊もの本
多くの言語の何百ものウェブサイト








BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!
www.third-reich-books.com



NSDAP/AO nsdapao.info